最近10年間の破裂脳動脈瘤症例の治療成績

池田　耕一　　阪元政三郎　　岩朝　光利
大城　真也　　安部　　洋　　野中　　将
林　　修司　　平川　勝之　　継　　仁
福島　武雄

福岡大学医学部脳神経外科

要旨：1996年１月から2005年12月までの10年間に当院で根治術を行った破裂脳動脈瘤339症例の患者背景，手術前の重症度，破裂動脈瘤の部位，症候性脳血管攣縮，正常圧水頭症，退院時の Glasgow Outcome Scale（GOS）などについて検討した．過去の報告と比較して患者背景や手術前の重症度については同様であったが，破裂脳動脈瘤の部位は，前大脳動脈瘤が少なく，内頸動脈瘤が多い傾向がみられた．症候性脳血管攣縮の発生頻度は術前の重症度に関連がなく，正常圧水頭症は重症度に比例して増加した．退院時の GOS は予後良好群が75%であった．後方循環の破裂動脈瘤は術前の重症度が高い傾向があったが，退院時には前方循環と比較しても予後は変わらなかった．また最近は入院時 grade 4，5 の重症例でも積極的に血管内治療，新たな薬剤を導入することで治療成績が向上している．

キーワード：クモ膜下出血，破裂動脈瘤，治療成績